

フィガロ技研がMicrosoft 365のバックアップをWasabi+Veeamで実現 大幅なコスト削減と運用効率化に成功

「Wasabiの大きな魅力は、下り転送料やAPIリクエストなどによる追加費用が一切発生しない点です。おかげでコスト増加の不安を抱えることなく、Microsoft 365のデータバックアップ環境を構築することができました。今後は他のバックアップ用途にも積極的に利用を拡げ、コスト削減や運用効率化に役立てていきたいと考えています」

フィガロ技研株式会社 情報システム部 宮島 政博氏

概要

大阪府箕面市に本社を置くフィガロ技研は、メタンガスやプロパンガス、一酸化炭素などの検知をおこなうガスセンサのリーディングカンパニーです。同社では、1969年に世界で初めて半導体式ガスセンサの量産化に成功。以来、半世紀以上にわたり、各種ガスセンサおよび応用製品の開発・普及に取り組み、安心・安全で快適な暮らしに寄与してきました。

同社はまた、アルコール検知器協議会の設立メンバーでもあり、高性能電気化学式アルコールセンサを搭載したアルコール検知器「フーゴシリーズ」を提供しています。大手運送事業者や航空会社などで幅広く採用されており、運輸・物流の安全にも貢献しています。

フィガロ技研は、SaaSの採用を含む情報システムの効率化にも意欲的に取り組んでいます。「日々の業務効率の向上のためにMicrosoft 365(以下、M365)を導入しています。」と説明するのは情報システム部の宮島 政博氏です。また、同 中島 佳奈氏も「そのためのネットワークの再整備なども行い、現場が快適に働ける環境づくりに力を入れています」と続けます。

課題

その同社において、大きな課題となっていたのが、M365のバックアップでした。中島氏は「特に最近では『Microsoft Teams』の利用が社内で急速に広がっており、多くの社員が日々の業務でフル活用しています。これに伴い、データ量も増加の一途をたどっていました」と振り返ります。

万一、重要なデータを失うようなことがあれば、業務にも大きな支障が生じかねません。そこで同社では、課題解決に向けた取り組みに着手しました。当初は「Microsoft Azure」(以下、Azure)を、すでに他のアプリケーションで導入済みだったMicrosoft AzureをM365のバックアップ先として利用する想定でした。しかし、ここでネックとなったのが、先々の維持運用に掛かるコストです。

「Azureに限らず、クラウドストレージではいわゆる『下り転送料課金』がしばしば問題になります。ユーザーがどう利用するかは事前に読めません。もし大量にリストア作業が発生するようだと、費用もそれに比例して膨れ上がってしまいます。今回もこの問題で、壁に突き当たってしまいました」と宮島氏は語ります。

顧客

フィガロ技研株式会社



業種

製造業

ユースケース

バックアップ

課題

- Microsoft 365向けデータバックアップ環境の実現
- 全社的なバックアップ統合とコスト削減

ソリューション

Wasabi Hot Cloud Storage & Veeam Backup for Microsoft 365

結果

- Microsoft Azureの半分以下のコストでMicrosoft 365のバックアップ運用を開始
- オンプレミスのファイルサーバーも含めた統合バックアップ環境を構築
- バックアップ運用管理の効率化・省力化に貢献



フィガロ技研株式会社
情報システム部
宮島 政博氏



フィガロ技研株式会社
情報システム部
中島 佳奈氏

ソリューション

この課題を解決するソリューションとして白羽の矢が立ったのがWasabi Hot Cloud Storageでした。Wasabiは他社オブジェクトストレージと異なり、データダウンロードに伴う転送料やAPIリクエスト費用などが一切掛かりません。ユーザーがどのような使われ方をしても、想定外にコストが嵩むような事態を避けることができます。

同社でも、こうした点を高く評価。宮島氏は「下り転送料課金の心配がなく、定額で利用できるのは非常に魅力的でした。これなら不安を抱えたまま運用するようなことは避けられますし、先々の予算計画も立てやすい。また、ユーザーの権限設定が柔軟に行える点も評価しました。たとえば、リストア作業を全部こちらで行うとなると、運用管理面での負荷が重くなってしまいます。その点Wasabiであれば、現場の責任者にリストア権限を持たせてこちらで作業してもらうといったことが容易に行えます」と語ります。

さらに、もう一つの決め手が、現在利用中のバックアップソフト「Veeam Backup for Microsoft 365」(以下、Veeam)との親和性の高さです。これまで同社では、ファイルサーバーはストレージのレプリケーション機能を用いたクラウドバックアップ、仮想サーバー群のバックアップはまた別のバックアップソフトと、複数の手段を用いてバックアップを用いていました。現在はこれをVeeamへ統合する作業を進めていますが、WasabiはVeeamともシームレスな連携が可能です。

これらの特長を備えたオブジェクトストレージサービスは他にないことから、同社ではWasabiの採用を決定しました。

結果

導入作業においては、Wasabiのシンプルさが絶大な威力を発揮。設定作業をわずか1日で完了しただけでなく、約200ユーザー分の初回バックアップも24時間掛からずに終わっています。元々、初回バックアップにはある程度の時間が掛かることを想定して、作業期間を年末に設定していました。しかし実際には、その必要もないほどスピーディに作業を完了することができました。

Wasabiの使い勝手に対しても、高い評価が寄せられています。中島氏は「クラウドサービスやストレージ製品の中には、操作方法が難解なものも少なくありません。その点、Wasabi

のユーザーインターフェースは非常に分かりやすく、日本語化された管理画面を見るだけで直感的に作業を行うことができます。オペレーションで悩まずに済むということは、我々運用管理者にとっても大変助かります」と語ります。

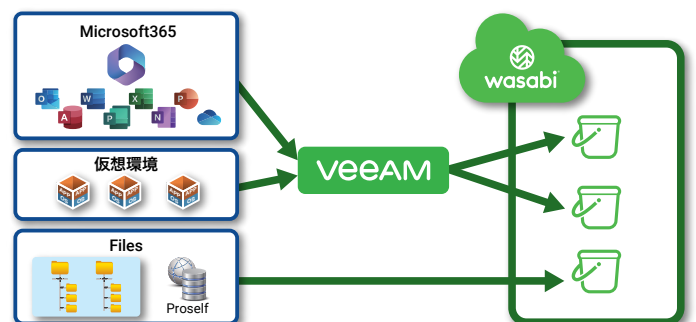
懸案であったM365のユーザーデータを安全に保護できる環境が実現日々のバックアップ作業も30分程度しか掛からないため、あえて夜間ではなく日中に実施しているとのこと。

加えて見逃せないのが、コスト面でのメリットです。初期投資だけでも6割削減ができたのですが、運用の際の下り転送料やAPIリクエスト費用を考慮すると削減できる費用はさらに大きくなるといえます。

同社では、こうした成果を踏まえ、Wasabiの適用領域をさらに広げていく計画です。宮島氏は「下り転送料課金の問題もあり、これまで当社ではクラウドストレージを積極的に使ってきませんでした。しかし、Wasabiは低廉な費用で使える上に、操作性も非常に優れています。そこで、他のバックアップについても、Wasabiに集約していきたいと考えています」と語ります。

その手始めとして、社内で稼働している小規模NAS装置のバックアップ先をAzureからWasabiに変更。宮島氏は「作業も我々だけで簡単に行えた上に、バックアップ時間を30～40%短縮するなど、パフォーマンスの高さも実感できました」と続けます。

また、前述のファイルサーバー／仮想サーバーのバックアップや、現在はAzure上に構築している顧客企業／グループ会社とのファイル共有システムなどについても、Wasabiへの移行を進めていくとのこと。こうして全社的なバックアップ統合が進めば、運用効率化やコスト削減などさらなるメリットが生まれることと期待されています。



Wasabiについて

Wasabiは、シンプルで予測可能な手頃な価格のHot Cloud Storage世界中の企業に提供しています。複雑な階層や予測不可能なEgress料金を必要とせず、競合他社の5分の1の価格で無制限のデータを保存し、即座にアクセスすることを可能にします。Wasabiは、米国ボストンを拠点としており、テクノロジー分野で最も急速に成長するイノベーター企業の一つとして評価されています。WasabiはBoston Red SoxのProud Partnerであり、Liverpool Football ClubとBoston Bruinsのオフィシャルクラウドストレージパートナーでもあります。

日本では東京と大阪でストレージセンターを運用しています。

詳しくは、<https://wasabi.com/ja/> をご覧ください。

©2023 Wasabi Technologies LLC. All rights reserved. WASABIおよびWASABIロゴはWasabi Technologies LLCの商標であり、Wasabi Technologies LLC.の許可なく使用することはできません。ここに記載されている他のすべてのブランド名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

Wasabi Technologies Japan合同会社
Email: japansales@wasabi.com



wasabi
hot cloud storage

www.wasabi.com/ja/